



子どもをど真ん中に学校・地域の魅力発信 ～つながろう東小コミスク～

発表者: 学校運営協議会 会長 足立恵宣 / 地域学校協働活動推進員 松井崇好

学校運営協議会の歩み 学校応援団として



H29－31 学校評議員会から学校運営協議会へ
小さく産んで大きく育てよう
既存の活動を運営協議会として再構成

H31－R5 コロナ禍「相談」
鼓笛隊、運動会、音楽会のあり方を検討

現在、「参画・協働」
クラブ活動、冬の体づくり事業等

これから『地域主体』

1. 組織化 — 役割分担、集える関係
2. 活動費 — 広報誌
3. 地域創生 — 学校と地域がWin-Win

“やりたい”を実現するクラブ活動

これまでも地域の方に協力いただき実施されてきました。

→ 実施内容は、講師が主なのか？児童が主なのか？

授業の時間を使い、6年生にヒアリング やってみたいクラブ活動を自由に発表

工作、可愛いモノを作りたい

城山登り、アスレチック、走りたい

経営学、食べたい、ジュース

ボッチャ、モルックがしたい

川探検、いきもの、水分れ公園

リレー、運動、鬼ごっこ

魚釣り、川遊び

心理学、遊びたい、ゲーム

ペーパークラフトクラブ

城山トレランクラブ

カフェクラブ

ニュースポーツクラブ

水分れいきものクラブ

体力アップクラブ

釣りクラブ

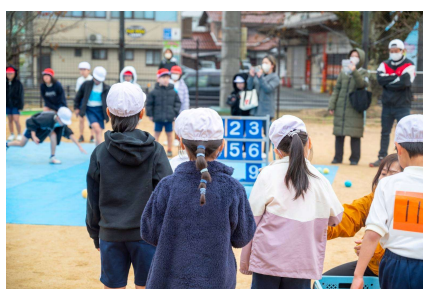
ボードゲームクラブ



カフェクラブ：珈琲1杯の価値や接客を学び、実際に営業する



釣りクラブ：地元釣り具企業による釣り場の環境問題や楽しさを学ぶ



地域が関わる冬の体づくり事業

これまでのマラソン記録に代わり、今の子どもたちの体力や運動能力の課題を改善していくことができるような“体づくり事業”ができないかという学校の振り返りを踏まえ、コミスクでも意見を取りまとめ、協力体制を築きました。

児童が考えたタイトル／東っこパワーアップフェスティバル
児童が自分で選択できる
児童が進行する開閉会式

1部：ミニマラソン・
スピードウォーキング

2部：パワーアップブース
(縦割り班で8ブースを巡る)

コミスク・PTA・地域の
協力者、合計48名が
学校行事に参加！

- 全員でヤマトレッチ(東小オリジナル体操)
- 1部：ミニマラソン・スピードウォーキング
周回数のチェック、タイムの読み上げ、ゴールした児童の対応(整列・観察)
- 2部：パワーアップブース
玉入れの籠もち、綱引きの審判、ストラックアウトのボード直し、タイム計測
児童の整列、ブースの撤収(物品整理・掃除)

先生が児童達を見守れる体制作り、そして一緒に楽しむ

東小コミスクはどうだった？

R5 コロナ禍が落ち着き、さまざまな物事が動き出しました
→ 会議の内容が学校に対しての要望・意見が多かった

R6 年齢や職歴・経験に関係なく意見を出し合える場づくり
→ ワークショップ型の会議と事前ミーティングの導入

“誰のために何をするのか”

+

“コミスクは、目的ではなく手段”

アンラーニングの重要性

これまでの学習の棄却と新たな置き換え

》 学びほぐし 《

R6年度全県講座／講師：熊谷慎之輔 談（岡山大学教授）

従来の会議形式



どちらの会議形式も良し悪しあり、
会の目的や協議する内容に合った会議形式を
柔軟に使い分けることが大切。



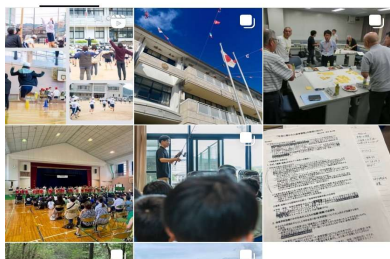
ワークショップ型の会議



東小コミスク
Instagram
QRコード



学校の様子やコミスクの
取組みを発信！



情報共有と開かれた土台作り

事前ミーティングの実施

中心の部分を一定の人間だけで協議してきた形を運営協議会前に全員へ呼びかけ、校長室で協議を重ねる方法に。欠席者へは、協議内容を共有し当事者意識を感じてもらう。

LINEグループの活用

情報共有や資料の事前確認など有効に活用して、メンバー間の意見交換を促しています。ただ、意図しない読取りも考えられるので補足と注意が必要・・・顔を合わせて語り合う大切さ

広報誌の発行・SNSの活用

学校運営について地域住民等の理解・協力・参画等が促進されるように積極的に情報提供に努めなければならない。

丹波市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則 第12条-2より

東小コミスクに関わる人の
ウェルビーイングを向上させたい